

■山室軍平 やまむろぐんぺい 宗教家、社会事業家。日本救世軍初代司令官。日本における救世軍活動を主導し、世界への顔にもなった。 学問のすすめ1872＝ 明治6年政変 1873＝ 1歳：	岡山県哲多郡則安村で、徳川期より苗字を持つ名門の農家の三男(第八子)に生まれる。 19上の長兄が肺結核で病臥していたこともあって、家計の厳しい中、
西南戦争・・・1877＝ 5歳：	村の弘業尋常小学校へ入学、 成績抜群で、
明治14年政変1881＝ 9歳： 岩倉具視没・1883＝11歳：	下等科を終了。母の実弟で上足守村の杉本弥太郎の養子となる。北陽尋常高等小学校中等科に進学、文化水準の高い陣屋町で、銀行のような会社を持ち、町長にまでなる養父のもと、松浦漢学塾にも通う。 長兄が死去、次兄が山室家再興をめざして教員となる。
帝国大学始・1886＝14歳：	卒業。養父とのかねて約束で都会へ勉学に出ようとするも許されず、無断家出三度目で上京に成功、足守出身の二松学舎塾長のもとへ押しかけ、紹介で築地活版製造所職工となる。養家廃嫡となって山室姓に復す。英語夜学校に通ながら、東京専門学校や英吉利法律学校の講義録などで勉学するうち、
国民之友始・1887＝15歳： 初の対等条約1888＝16歳：	工場の昼休みに、キリスト教路傍伝道に接し、興味を抱いて、福音会土曜集会に出たり、聖書を読み、築地福音教会に通って高野丈三牧師の指導を受け、ついに受洗して会員となり、路傍伝道を開始、出版業をしていた篤志家の支援を得て、福音教会伝道学校に通ううち、
帝国憲法発布1889＝17歳：	平民福音に開眼、新島襄のことを知り、同志社の学生聖書研究夏期学校に駆けつけ、牧野虎次と出会って生涯の友となり、8年ぶりに帰省、高梁で伝道後、岡山孤児院を訪ね、石井十次と出会う。同志社に入学。
帝国議会始・1890＝18歳： 足尾鉋毒始・1891＝19歳： 大本教・・・1892＝20歳： 日清戦争始・1894＝22歳： 日清戦争終・1895＝23歳：	この年、新島襄が死去。餓死せんばかりの困窮を周囲の計らいもあって凌ぎ、濃尾大地震で石井が開設した震災孤児院を全面支援して孤児救済に尽力。 同志社病院に入院した石井十次と救世軍創設者ブースの「最暗黒の英国と其の出路」を研究。 信仰上の危機・身体の衰弱・経済上の困難から、同志社を中退、高梁教会におしかけ伝道師となる。 宮崎県の岡山孤児院農業部へ行く。日本に派遣された救世軍から依頼された石井の要請で上京、伊藤為吉宅に寄寓、救世軍本営のライト大佐を訪問、応接に不快も、小隊の活動を見て、下足番志願で入隊。
白馬会・・・1896＝24歳： 八幡製鉄始・1897＝25歳： 子規句歌革新1898＝26歳： Bushidou・・・1899＝27歳： ピアノ国産化・1900＝28歳：	救世軍士官(中尉)となる(日本人第一号)。大尉に昇進した直後、啓示を体験、以後、救済事業を展開、路傍伝道で小石川警察署に拘留される。 神田三崎町に神田小隊を自給自営。入隊直後に外国人女士官宅で紹介された日本人女性と親しくなり、 日本救世軍初の結婚。合作の「平民之福音」を出版、たちまち評判となり、救世軍の大きな財源となる。 長女誕生。中校に昇進して本営直属となるとともに、妻機恵子も日本初の女性上級士官として、醜業婦救済所長となる。デューズと廃業希望娼妓の救助に赴き、暴漢に襲われる。
田中正造直訴1901＝29歳： 教科書疑獄・1902＝30歳： 日露戦争始・1904＝32歳： 日露戦争終・1905＝33歳： 満鉄発足・・・1906＝34歳：	父母が相次いで死去。 長男誕生。 初の渡欧、ロンドンの救世軍万国大会出席し、戦場書記官となる。 次男誕生。帰国後、伝記文学の傑作「ブース大將伝」を書いて、救世軍から出版。 次男が死去。次女誕生。本営内に労働紹介部開設。築地に女中寄宿舎を開設、機恵子が主任となる。救世軍大連婦人ホーム開設。のち「慈善鍋」となる「年末貧民宿慰問籠配布」が始まる。
韓国反日暴動1907＝35歳： アラビヤ創刊・1908＝36歳： 伊藤博文暗殺1909＝37歳： 大逆事件判決1911＝39歳： 明治天皇没・1912＝40歳： 大正政変・・・1913＝41歳： 第一次大戦始1914＝42歳： 21ヶ条要求・1915＝43歳： 民本主義・・・1916＝44歳： ロシア革命・1917＝45歳： 本格政党内閣1918＝46歳： ベルサイユ条約・1919＝47歳： 大暴落・・・1920＝48歳： 原敬首相暗殺1921＝49歳： 水平社結成・1922＝50歳： 関東大震災・1923＝51歳： 護憲三派圧勝1924＝52歳： 治安維持法・1925＝53歳： 円本時代始・1926＝54歳：	大学植民館開設。 三男誕生。養父が死去。救世軍が内務省から初めて選奨を受ける。第2回渡欧、アメリカを経て帰国。自宅が全焼。三女誕生。吉原遊郭全焼を契機に、「公娼全廃論」「娼妓自由廃業の勧め」を書く。 初代ブース大將が死去。 四女善誕生。神田の大火で火元が救世軍大学植民館の風評に、「罪を天下に謝す」を印刷して即日配布。 石井十次が死去、葬儀に出席。 藍綬褒章を受く。 四男誕生。妻が死去し、「山室機恵子」を刊行。遺志により、救世軍結核療養所が開設される。 四男が死去。第3回渡欧、アメリカ各地で大歓迎され、帰国。非難受けながら、少校と再婚(山室悦子)。 五女誕生。 念願の煉瓦造り本営と中央会館が新築落成。 岡山小隊会館献堂式で、兄峯三郎が救世軍兵士となる。 五男誕生。司令官デューズ少将と合わず、救世軍を去ろうと惑う。「民衆の聖書」を刊行。 次女が死去。 関東大震災で、救世軍の施設の大部分が焼失するも、活発な救済活動をする。 勲六等瑞宝章を受ける。 書記長官を解任、万国本営出向を命じられ、第4回渡欧、ロンドン滞在中の秩父官を救世軍施設に案内。 少将となる。初代の息子で後を継いだプラムエル＝ブース大將が来日。日本救世軍司令官となる。叙従六位。救世軍将官会議出席のため、カナダ経由でロンドンに向う。
金融恐慌・・・1927＝55歳： 共産党事件・1928＝56歳： 世界恐慌・・・1929＝57歳： 海軍軍縮条約1930＝58歳： 満州事変・・・1931＝59歳： 五一五事件・1932＝60歳： 帝人疑獄事件1934＝62歳： 芥川直木賞始1935＝63歳： 二二六事件・1936＝64歳： 日中戦争始・1937＝65歳： 健保+総動員 1938＝66歳： 大政翼賛会・1940＝68歳：	鉄筋の新しい本営と中央会館が落成。 村井保固が生活費負担を申し出、のち没するまで継続出資を受ける。エバンゼリソ＝ブース中將が来日。 アメリカ救世軍大会へ招かれる。中將に昇進。 帰国。九州から沖縄を回った際、日本脳炎となり、以後、その後遺症で身体が衰弱して行く。 日比谷公会堂で還暦祝賀会。 最期の渡欧。アメリカを経て帰国。 司令官を辞し、顧問となる。 青年士官の改革おこる。司令官に復す。 妻悦子が死去。創立者章を受ける。救世軍報国茶屋を中国北部の戦線に開設。 朝鮮救世軍顧問を兼ねる。 新島襄永眠五十年記念講演。急性肺炎にて没した。「平民の福音」は発行停止となる。